

[Short Video] SoftBank Group Earnings : Q3 FY2024 by Yoshimitsu Goto,  
Board Director, Corporate Officer, Senior Vice President, CFO & CISO

日本語書き起こし

2025年2月12日

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下SBGと併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」（

[https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)）をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設定又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やLINEヤフー株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

## 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社（以下併せて「SBファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて「SBファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」）、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」）及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ピークル又はオルタナティブ投資ピークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」）を含みます。

SBファンド（ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投

資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつかの要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。

## StargateとCristal intelligence

昨年10月のSoftBank Worldにおいて、孫（孫正義 代表取締役 会長兼社長執行役員）は「10年以内にArtificial Super Intelligenceを実現する」というビジョンをふたたび強調しました。それ以来、われわれはこのビジョンを現実のものとするために、具体的な一歩を踏み出しています。今年1月には、OpenAIおよびOracleとともに「Stargate」を発表しました。われわれは協力して、AIの進化に不可欠な大規模な計算能力を提供することを目指します。今後4年間で、段階的に5,000億ドルを投資し、新たなAIインフラを構築・運営する計画です。プロジェクトごとに、Stargate出資者の資本と外部資金を活用していきます。

さらに、今年2月にはOpenAIとの新たな戦略的パートナーシップを発表しました。われわれは、個々の企業の全てのシステム、データを安全に統合し、当該企業専用にカスタマイズされたAIエージェント「クリスタル・インテリジェンス（Cristal intelligence）<sup>※</sup>」を開発・提供します。ソフトバンクグループは、この革新的なAIをいち早く大規模に導入し、クリスタル・インテリジェンスを全社に展開することで、AI革命におけるリーダーシップをさらに

強化していきます。これらの革新的な取り組みにより、われわれはAIの未来をただ想像するのではなく、積極的に構築しています。

## Net Asset Value (NAV)

それでは、数値について見ていきましょう。NAVは、当社にとって最も重要なKPIであり、引き続き歴史的に高い水準を維持しています。12月末時点のNAVは29.3兆円となり、9月からわずかに増加しました。Armの株価は下落しましたが、円安ドル高の影響が一部相殺しました。最近のArmの株価回復を受け、試算ベースのNAVは約34兆円に上昇しています。

## 業績

2024年4月～12月までの9カ月間の純利益は6,362億円となり、前年同期比で約1.1兆円の改善となりました。T-Mobileの好調な株価パフォーマンスが主な要因です。一方で、2024年10月～12月期（第3四半期）は3,692億円の純損失を計上しました。これは主に、ソフトバンク・ビジョン・ファンドの投資損失と、円安による為替差損が要因です。

## ソフトバンク・ビジョン・ファンド

第3四半期に、ソフトバンク・ビジョン・ファンド（SVF）は23億ドルの損失を計上しました。SVF1は10億ドルの損失を計上しましたが、これは、Grabなどの好調な業績が一部相殺したものの、CoupangやDiDiといった上場株式の下落が主な要因でした。SVF2は12億ドルの損失を計上しました。これは、一部の未公開企業の業績低迷によるものです。また、両ファンドとも、米国新政権への移行に伴う米ドル高の影響も受けました。インドでは、Swiggyが上場し、これで本年度3件目のインド企業の上場となりました。現在、SVFではレイトステージ投資として330億ドルを保有しており、インド以外にもさらなるIPOを見込んでいます。昨年9月、SVF2はOpenAIに5億ドルを投資し、今年1月には15億ドルのセカンダリー投資を実施しました。これらの投資は、当社より広範なAIロードマップにおける戦略的なマイルストーンとなりました。OpenAIは当社にとって重要な投資先であり、主要なピ

ジネスパートナーです。こうした取り組みを通じて、AIに関するビジョンを具体的な成果へとつなげ、AI分野での競争力をさらに高めています。

## Arm

第3四半期において、Armは過去最高の売上高とロイヤルティ収入を達成し、IPO後の力強い成長軌道を維持しました。この成長は、Armv9の採用・展開のほか、コンピュータ・サブシステムの利用拡大によってもけん引されました。また、Armベースのチップはクラウドサービスでの採用が拡大しており、今後のさらなる成長に向けた基盤を築いています。

## 財務戦略

当社の財務方針に変更はありません。通常時においては、LTV（Loan to Value）比率を25%未満に維持し、社債償還資金の2年分に相当する現金をバランスシート上で保有し続けます。

StargateやOpenAIへの投資を通じた成長に注力しつつ、5,000億円規模の自己株式取得を継続しています。1月末時点で、総額2,099億円分の自己株式を取得しました。

LTVは12.9%、手元現金の保有額は5兆円と、当社の財務基盤は強固です。Stargate Projectやクリスタル・インテリジェンスの推進に向け、多様な資金調達戦略を模索・活用しながら、今後の投資機会にも備えていきます。

※ クリスタル・インテリジェンスは仮称であり、正式名称ではありません。また本資料に記載された情報は現時点の計画に基づくものであり、仕様やその他条件等は正式リリースまでに変更される可能性があります。